

公家町遺跡

— 染殿町の調査 —

2017年

古代文化調査会

例 言

1. 本書は、古代文化調査会が京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665-3、665-8番地において、京阪電鉄不動産株式会社による集合住宅建設に伴い実施した公家町遺跡（文化財保護課番号16S238）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査（16MUMA）は、京阪電鉄不動産株式会社より委託を受けた古代文化調査会の小松武彦が担当した。
3. 調査にあたっては、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導を受けた。
4. 本書の編集・執筆は小松武彦がおこなった。
5. 図面及び遺構・遺物の整理、遺構の製図は小松がおこない、遺物の実測は板谷桃代が担当した。
6. 本書で使用した方位及び座標の数値は世界測地系（新測地系）平面直角座標系VIによる。記載した数値はm単位で、水準はT.P.（東京湾平均海面高度）である。
7. 本書で使用した地図は、国土地理院発行の25,000分の1（京都東北部）、京都市都市計画局発行の2,500分の1の地図（相国寺・御所）を調整し、使用した。
8. 土壌及び土器・瓦類の色調の表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
9. 遺物番号は実測図・写真ともに共通している。
10. 発掘調査及び遺物整理に際して、下記の方々の御指導・御協力を得ることができた。記して感謝の意を表します。（所属・敬称略、五十音順）

赤松佳奈 家原圭太 植山 茂 馬瀬智光 奥井智子 梶川敏夫 熊井亮介 熊谷舞子
小森俊寛 黒須亜希子 五島列暖 鈴木久史 西森正晃 新田和央 長谷川行孝
濱井伸吉 平尾政幸 藤原武士 堀 大輔 前田義明 宮原健吾 吉田公茂 山田邦和
山本雅和

(株)明輝建設 (株)大高建設 (公財)京都市埋蔵文化財研究所
京阪電鉄不動産株式会社(株)

本文目次

公家町遺跡

I. 調査の経緯	1
II. 調査の経過	1
III. 遺 構	4
IV. 遺 物	8
V. ま と め	20

図版目次

図版1	遺跡	第1面平面実測図
図版2	遺跡	第2面平面実測図
図版3	遺跡	第3面平面実測図
図版4	遺跡	第4面平面実測図
図版5	遺跡	東壁実測図
図版6	遺跡	南壁実測図
図版7	遺跡	北壁実測図
図版8	遺跡	溝547・598・772~776・路面750実測図
図版9	遺跡	1 北調査区第1面全景(北東から) 2 北調査区第2面全景(北東から)
図版10	遺跡	1 北調査区第3面全景(東から) 2 北調査区第4面全景(北東から)
図版11	遺跡	1 南調査区第1面全景(西から) 2 南調査区第2面全景(西から)
図版12	遺跡	1 南調査区第3面全景(西から) 2 南調査区第4面全景(西から)
図版13	遺跡	1 北調査区蔵186(西から)

	2	北調査区溝250・柱穴列1（東から）
	3	北調査区布掘柱列500東半（西から）
	4	北調査区布掘柱列500西半（西から）
図版14 遺跡	1	北調査区井戸88（南から）
	2	北調査区井戸227（北から）
	3	北調査区井戸383（北から）
	4	北調査区井戸571（南西から）
	5	北調査区井戸561（東から）
図版15 遺跡	1	南調査区路面750-2・溝773（東から）
	2	南調査区溝772～776（西から）
	3	北調査区溝598（西から）
図版16 遺物		土壘252・176出土遺物
図版17 遺物		土壘176出土遺物
図版18 遺物		土壘176出土遺物
図版19 遺物		土壘176出土遺物
図版20 遺物		土壘176・643・溝250・土壘182出土遺物
図版21 遺物		落込み754・溝773・井戸561・溝598出土遺物
図版22 遺物		土壘7・100・190・溝250・井戸561・第4面掘下げ出土遺物
図版23 遺物		溝772・土壘710・83出土遺物
図版24 遺物		土壘44・163・181・252・176・溝773出土遺物

挿 図 目 次

図1 調査地点位置図	1
図2 調査地位位置図	2
図3 平安京条坊と調査地位位置図	2
図4 調査区と条坊復元モデル図	3
図5 蔵186実測図	5
図6 石組716実測図	5
図7 溝250・布掘溝500・柱穴列1実測図	6
図8 井戸88実測図	7
図9 井戸227実測図	7
図10 井戸383実測図	7
図11 井戸561実測図	7
図12 土壘252出土土器実測図	8

図13	土壙176出土土器実測図 1	9
図14	土壙176出土土器実測図 2	10
図15	土壙176出土土器実測図 3	11
図16	土壙44・643・石組713出土土器実測図	11
図17	溝250出土土器実測図	12
図18	土壙182出土土器実測図	12
図19	落込み754出土実測図	13
図20	土壙340出土土器実測図	13
図21	井戸383出土土器実測図	13
図22	溝773出土土器実測図	13
図23	井戸561出土土器実測図	14
図24	土壙480出土土器実測図	14
図25	溝598出土土器実測図	14
図26	瓦拓影・実測図 1	15
図27	瓦拓影・実測図 2	16
図28	瓦拓影・実測図 3	17
図29	錢貨拓影図	18
図30	金属・石・角製品実測図	18
図31	紀年銘拓影図	19
図32	〔洛中絵図〕	21
図33	〔内裏絵図〕	21

表 目 次

表1	遺構概要表	4
表2	遺物概要表	8

公家町遺跡

I 調査の経緯

調査地は京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665-3、665-8番地である。当地は公家町遺跡に該当し、平安京跡一条大路末にも当たっている。この地に京阪電鉄不動産株式会社による共同住宅建設の計画がなされ、工事に先立ち京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、保護課）が試掘調査を実施した。その結果、平安時代から江戸時代の遺構が遺存していることが確認されたため発掘調査が必要となり、保護課の指導の下、施主との協議によって、古代文化調査会が発掘調査を行うことになった。

II 調査の経過

公家町遺跡は豊臣秀吉が天正十三年（1585）の正親町上皇の仙洞御所の造営時から皇族・公家屋敷の再編集住が行われ、更に天正十七年（1589）の内裏修理（天正度造営）に並行して内裏より東方に公家屋敷を集めるために町家を移転を命じて公家町は形成された。



図1 調査地点位置図 (1/25,000)

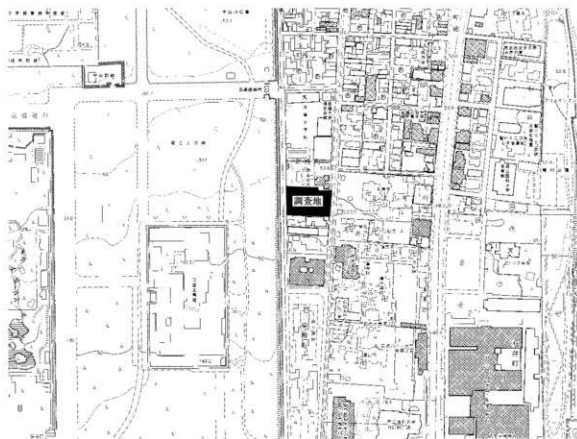


图2 調査地位置图 (1/5,000)

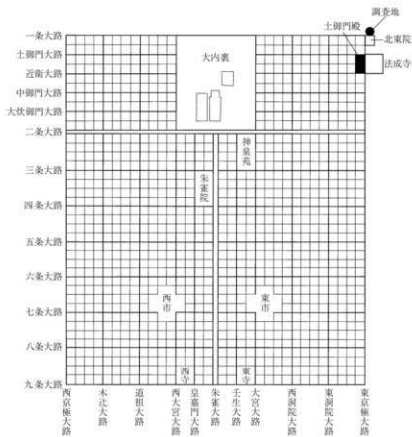


图3 平安京条坊と調査地位置图

当地は絵図によれば、江戸時代前期頃は南側が「四辻家」、北側が「松木家」屋敷であり、これ以降江戸時代末期までは、南側は「四辻家」、北側は「松木家」屋敷と推定される。また、平安京の一条大路の延長に位置し、南側には藤原道長の娘（彰子）である上東門院が天喜六年（1058）の火災で消失した「法城寺の東北院^{北院}」を移転、再建したところでもある。

調査は残土置き場の確保のため北区・南区に分け反転し、平安時代から江戸時代の遺構4面、調査面積761㎡を平成28年9月12日から平成29年1月31日まで実施した。

調査の方法は、(公財)京都市埋蔵文化財研究所が作成した平面直角座標系VIによる4mメッシュのグリッドを基に北調査区の北東角を原点($X=-107,970.4$ $Y=-21,226.3$)として、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットの記号を付し、遺構遺物の記録をとる方法で行った。同研究所の平安京条坊モデル60の左京北辺四坊八町の数値を使用して一条大路末を推定復元した。

北西	$X=-108,009.11\text{m}$	北東	$X=-108,008.62\text{m}$
	$Y=-21,414.94\text{m}$		$Y=-21,295.55\text{m}$
南西	$X=-108,128.50\text{m}$	南東	$X=-108,128.01\text{m}$
	$Y=-21,414.45\text{m}$		$Y=-21,295.07\text{m}$

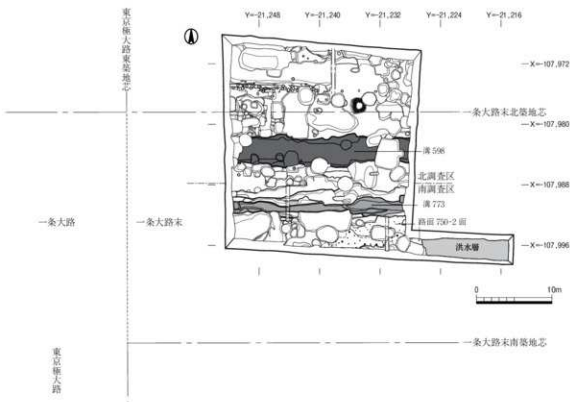


図4 調査区と条坊復元モデル図 (1/500)

Ⅲ 遺 構

調査区の標高は51.2～51.5mで東側の寺町通へ傾斜している。基本層序は北調査区の北壁（図版7）では表土下0.6mまでが近現代の盛土、0.6～0.8mが14層のぶい黄橙色砂泥層で江戸時代後期の整地層である。約0.8～1.0mが22層の褐色砂泥層で桃山時代から江戸時代前期の整地層である。1.0～1.2mが34層のぶい黄褐色砂泥層で平安時代の整地層で北壁の一部で確認した。以下がぶい黄褐色シルト層の無遺物層（地山）となる。南調査区のY=-21.226m付近から東側には江戸時代末期以降と考えられる洪水層（図版6の13層）の灰黄褐色砂礫層が堆積する。

第1面（江戸時代後期～末期）（図版1・9の1・11の1）

江戸時代末期の遺構は土壌7・43・44・80・81・93・97・100・156・252、溝20、池40、石組145、井戸4・5・82・86・653・657などがある。溝20はX=-107.979付近で検出した東西溝である。幅は約1.0m、深さ0.2mで埋土は黒褐色砂礫層で江戸時代末期の土器が出土した。池40は調査区南側で検出したが規模・形状は江戸時代以降の遺構に攪乱され不明である。天明八年（1788）天の火災後の遺構としては土壌1・645・646・661・662などがある。

第2面（桃山時代から江戸時代中期）（図版2・9の2・11の2・12、図5～7）

江戸時代中期の遺構は土壌83・181・188・190・216・247、蔵186、石組713、716などがある。宝永五年（1708）の火災直後の遺構は土壌176・643・679・705・706などがある。桃山時代から江戸時代前期の遺構は土壌182・199・200・225・682・710・715、柱穴1、溝250、布掘柱列500などがある。溝250は東西方向で幅は約3m、深さ0.6mで埋土は3層に分かれる。1～2層は砂礫層でXI期新～XII期古の遺物が出土した。下層の4～5層からは京都XI期古～中の遺物が出土した。宅地境の溝である。溝250の南側には宅地境の塀に当たる柱穴1と下層で布掘柱列500を検出した。

第3面（室町時代）（図版3・10の1・12の1・14の1～4、図8～10）

室町時代の遺構は路面750、井戸88・227・383・571、土壌260・340・384、落込み754などがある。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
江戸時代後期～末期 （第1面）	溝20、池40、井戸4・5・82・86・653・657、石組145、土壌1・7・43・44・80・81・93・97・100・156・163・252・645・646・661・662	
桃山時代～江戸時代中期 （第2面）	土壌83・129・176・181・182・188・189・190・199・200・225・247・643・679・682・705・706・710・715、蔵186、石組713・716、溝250、布掘柱列500、柱穴1	
室町時代 （第3面）	路面750、井戸88・227・383・571、落込み754、土壌260・340・384	一条大路末路面
平安時代～鎌倉時代 （第4面）	溝547・598・772～776、井戸561、路面750-2、土壌480・493・494・524・535・552・539・578・597・600	一条大路末北側溝・路面

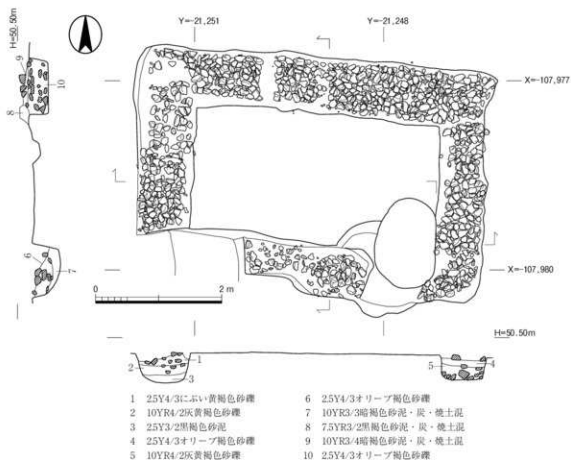


図5 蔵186実測図 (1/60)

る。路面750は調査区南東よりで東西方向に検出した。路面の西側と南側は攪乱されていた。範囲は南北2.1m、東西3.5mで2~4cm大の石が敷かれていた。

第4面 (平安時代から鎌倉時代)

(図版4・8・10の2・12の2・14の5・14、図11)

鎌倉時代の遺構は溝773・774・776、土壕578、路面750-2などがある。溝773は幅1.8~2.0m、深さ約

0.7mで埋土は2層で、京都Ⅵ期新~Ⅶ期古の遺物が出土した。路面750-2は路面750の下層で検出した。範囲は南北3.0m、東西6.2mで2~5大の石が敷かれていた。平安時代後期の遺構は溝547・772・775、井戸561、土壕480・493・494・524・535・539・552・591・597・600などがある。平安時代前期の遺構は溝598である。東西方向で幅は3.0~3.6m、深さ約0.8mで埋土は2層で、京都Ⅱ期古~中の遺物が出土した。

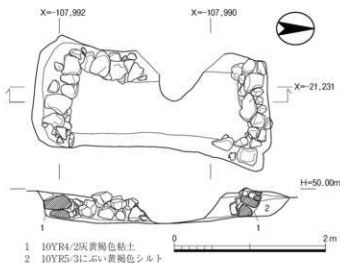


図6 石組716実測図 (1/60)

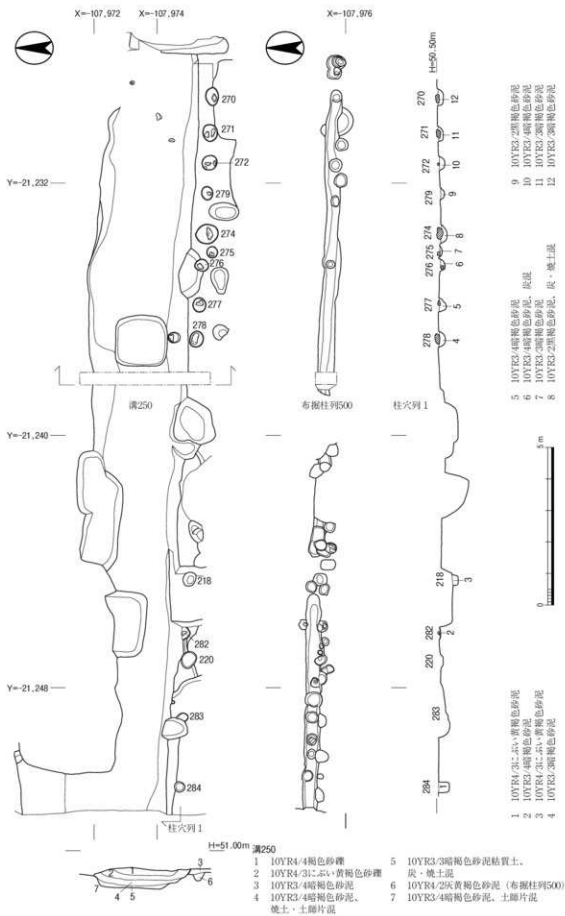


图7 溝250·布掘柱列500·柱穴列1実測図 (1/120)

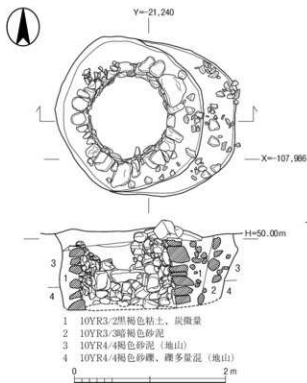


图8 井戸88实测图 (1/50)

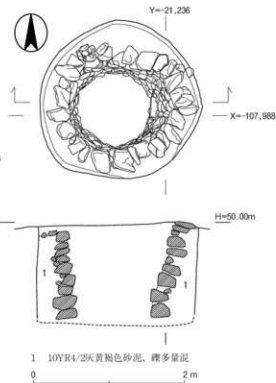


图9 井戸227实测图 (1/50)

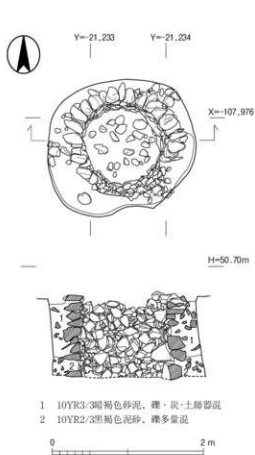


图10 井戸383实测图 (1/50)

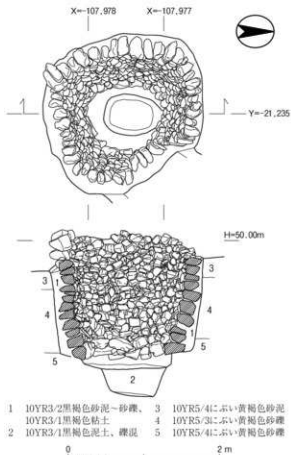


图11 井戸561实测图 (1/50)

IV 遺物

出土遺物は、整理箱にして283箱である。時代は江戸時代ものが大半を占め、次に平安時代、鎌倉時代、室町時代となる。なお、時代区分は京都の土器編年¹³をもとにした。

土器・陶磁器類

土壇252出土土器 (図版16、図12)

土師器皿S (1～5)、同焼塩壺身 (7)、三田青磁皿 (8)、肥前染付皿 (9～11)、同椀 (12)

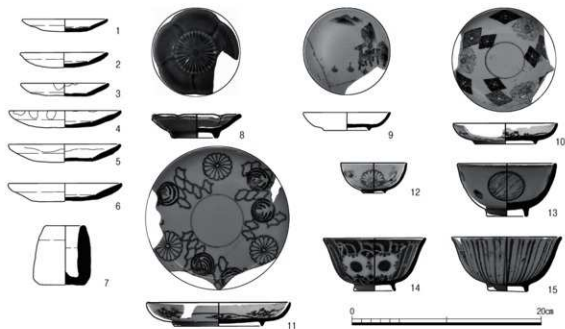


図12 土壇252出土土器実測図 (1/4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク点数	Cランク点数
江戸時代後期～末期	土師器、国産陶磁器、焼締陶器、軒瓦、瓦、銭貨、金属製品、石製品、ガラス製品		土師器6点、土師製品1点、国産陶磁器9点、棟先瓦・軒瓦3点・金属製品4点、銭貨7点		
桃山時代～江戸時代中期	土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器、焼締陶器、瓦器、軒瓦、瓦、銭貨、石製品、金属製品		土師器17点、土師製品11点、国産陶磁器59点、棟先瓦・棟端瓦2点、石製品1点、金属製品4点		
室町時代	土師器、輸入陶磁器、焼締陶器、瓦器、軒瓦、瓦		土師器10点、瓦器2点		
平安時代～鎌倉時代	土師器、灰軸陶器、緑軸陶器、須恵器、瓦器、軒瓦、瓦、銭貨、角製品		土師器18点、瓦器3点、灰軸陶器2点、緑軸陶器1点、須恵器5点、軒瓦31点、銭貨4点、角製品1点		
合計		301箱	201点 (18箱)	283箱	0箱

※ コンテナ箱数は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より18箱多くなった。

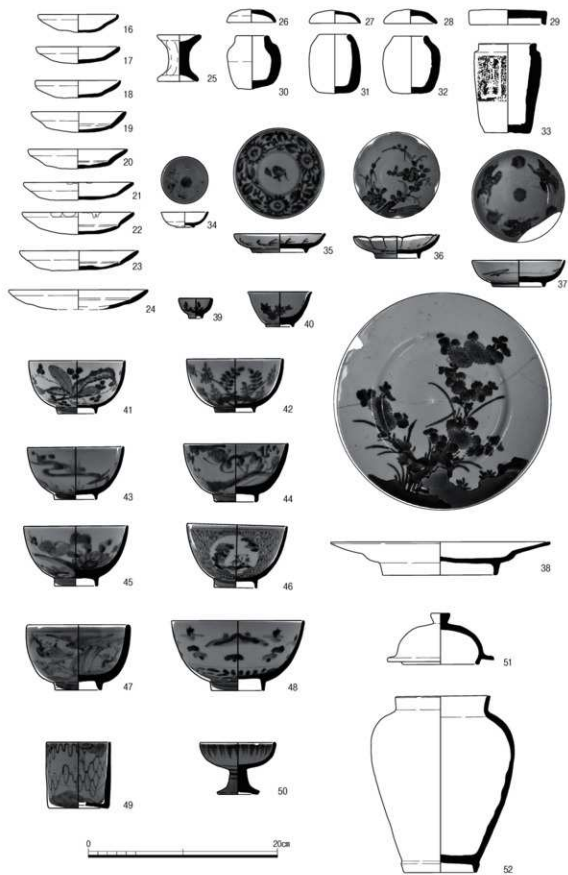


图13 土城176出土土器实测图1 (1/4)

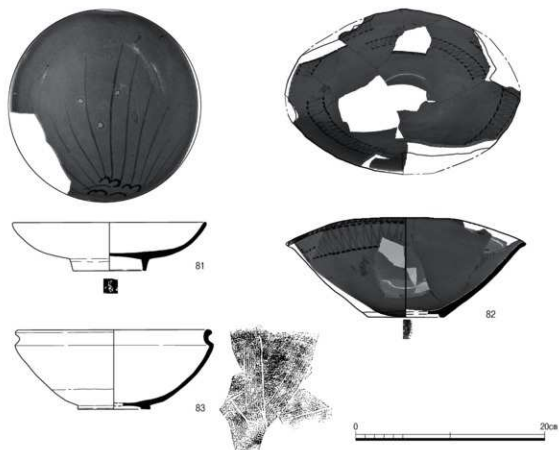


図15 土壙176出土土器実測図3 (1/4)

～14)、京焼椀 (15) などが出土した。肥前染付の10～12は菊花紋を配されており禁裏からの注
文品である。京都XIV期古～中に比定され、江戸時代末期頃と考えられる。

土壙176出土土器 (図版16～20、図13～15)

土師器皿Sb (16～18)、同皿 S (19～24)、同灯明受皿 (25)、同
焼塩壺蓋 (26～29)、同身 (30～33)、肥前染付皿 (34～38)、同椀
(39～48)、同筒形猪口 (49)、同仏飯器 (50)、同白磁蓋 (51)、同
壺 (52)、京焼丸椀 (53～60)、同筒形椀 (61)、同杵形椀 (62)、同
杉形椀 (63)、同平椀 (64～71)、肥前平椀 (72)、丹波灯明受皿
(73)、備前灯明受皿 (74)、京焼髪水入れ (75)、同柄杓 (76)、同
蓋 (77)、同鍋 (78)、同汁注ぎ (79)、唐津片口付き鉢 (80)、京焼
皿 (81)、同鉢 (82)、同播鉢 (83) などが出土した。焼塩壺の33に
は「泉州麻生」の刻印がある。京焼の60には「寶山」、81には「清
水」、82には「栗田」の刻印がある。また、60には菊花紋が配され
ており禁裏からの注文品と考えられる。土師器群は京都XII期新項
のものと考えられるが陶磁器類は17世紀から18世紀前半の遺物である。



図16 土壙44・643・石組
713出土土器実測図 (1/4)

土壇44・643・石組713出土土器 (図版20、図18)

京焼椀 (84) は江戸時代後期で土壇44出土。同椀 (85) は釜山窯の「半使茶椀」の写しと考えられる。江戸時代中期で土壇643出土。同椀 (86) には七角形の刻印有り、江戸時代中期で石組713出土。

溝250出土土器 (図版20、図17)

土師器皿S (87・88)、同焼塩壺 (89)、肥前染付小坏 (90)、唐津皿 (91)、同火入 (92)、織部灯明皿 (93)、同平向付 (94・95) などが出土した。京都XI期中～XII期古である。

土壇182出土土器 (図版20、図18)

土師器皿Sb (96・97)、同皿S (98～101)、同焼塩壺 (102)、唐津椀 (103) などが出土した。京都XI期古と考えられる。

落込み754出土土器 (図版21、図19)

土師器皿S (104～106) などが出土した。京都IX期新～X期古に比定される。

土壇340出土土器 (図20)

土師器皿N (107～110) などが出土した。胎土は粒砂が多く、整形・調整などが雑で在地系の土師器と考えられる。京都IX期新に比定される。

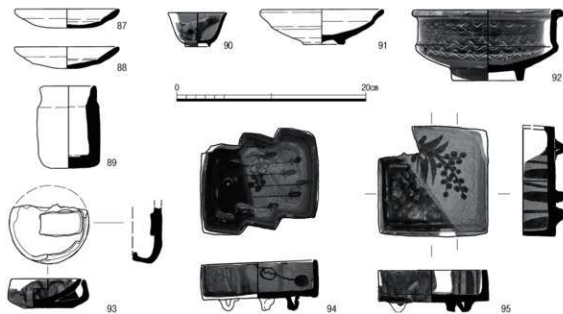


図17 溝250出土土器実測図 (1/4)

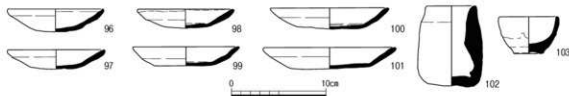


図18 土壇182出土土器実測図 (1/4)

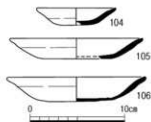


図19 落込み754出土土器実測図 (1/4)

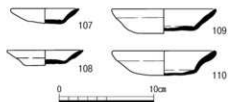


図20 土壙340出土土器実測図 (1/4)

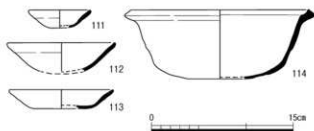


図21 井戸383出土土器実測図 (1/4)

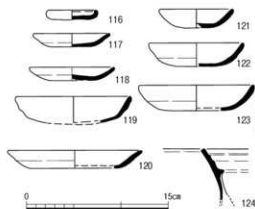
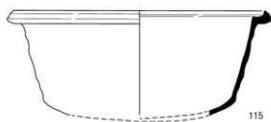
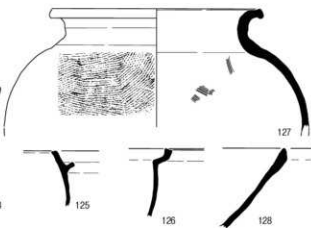


図22 溝773出土土器実測図 (1/4)



井戸383出土土器 (図21)

土師器皿S (111・112)、同皿N (113)、瓦器鍋 (114・115) などが出土した。京都VII期新～VIII期古で、14世紀中頃と考えられる。

溝773出土土器 (図版21、図22)

土師器皿Ac (116)、同皿N (117～120)、同皿S (121～123)、瓦器羽釜 (124・125)、同鍋 (126)、須恵器甕 (127)、同鉢 (128) などが出土した。京都VI期新～VII期古に比定でき、13世紀の後半と考えられる。

井戸561出土土器 (図版21、図23)

土師器皿N (129～133)、灰釉陶器皿 (134) などが出土した。京都V期新以降に比定される。12世紀後半頃と考えられる。

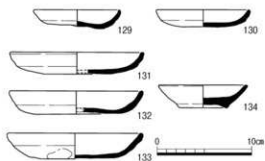


図23 井戸561出土土器実測図(1/4)

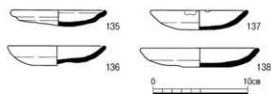


図24 土壙480出土土器実測図(1/4)

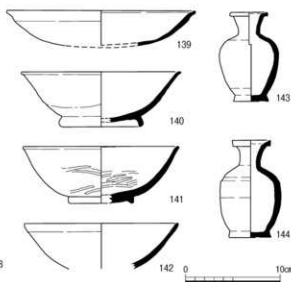


図25 溝598出土土器実測図(1/4)

土壙480出土土器 (図24)

土師器皿N (135～138) などが出土した。IV期中～新に比定される。11世紀中頃から後半と考えられる。

溝598出土土器 (図版21、図25)

土師器杯A (139)、灰釉陶器碗 (140)、須恵器碗 (141)、緑釉陶器碗 (142)、須恵器瓶子 (143・144) などが出土した。京都Ⅱ期古～中頃に比定でき、9世紀後半と考えられる。

瓦 類

棟 先 瓦 (図26)

瓦1は10弁菊文で土壙190出土。瓦2は8弁菊文棟先瓦で土壙1出土。瓦3は丸文棟先瓦で土壙1出土。

軒 丸 瓦 (図版22、図26・27)

瓦4は複弁蓮華文で土壙524出土。瓦5は単弁蓮華文で土壙83出土。瓦6は複弁蓮華文で溝250出土。瓦7は複弁蓮華文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦8は複弁蓮華文で土壙190出土。瓦9は複弁蓮華文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦10は複弁蓮華文で土壙100出土。瓦11は複弁蓮華文で周縁に唐草文。井戸561出土。瓦12は花文で鴨沂高等学校出土の法成寺瓦と同じ文様。土壙7出土。瓦13は単弁蓮華文で土壙190出土。瓦14は複弁蓮華文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦15は複弁蓮華文で溝250出土。瓦16は複弁蓮華文で土壙190出土。瓦17は複弁蓮華文で井戸561出土。瓦18は複弁蓮華文で井戸561出土。瓦19は複弁蓮華文で井戸561出土。瓦20は単弁蓮華文で土壙7出土。瓦21は単弁蓮華文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦22は単弁蓮華文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦23は単弁蓮華文で外区に逆さの「近」銘。土壙190出土。

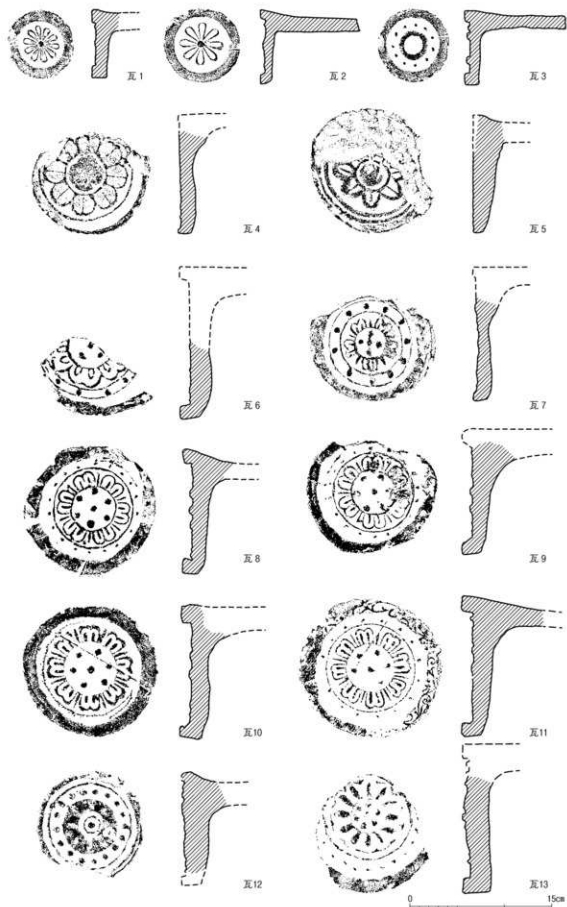


图26 瓦拓影·实测图1 (1/4)

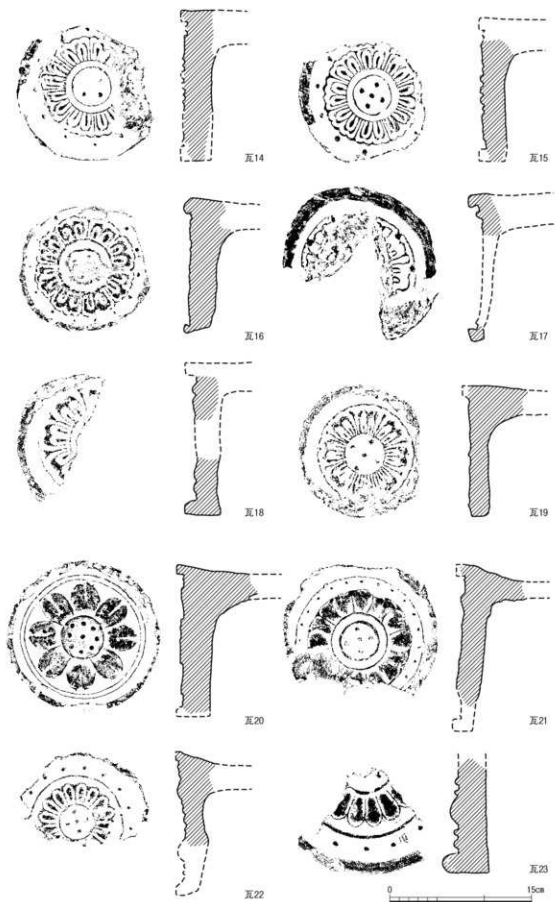


图27 瓦拓影·实测图2 (1/4)

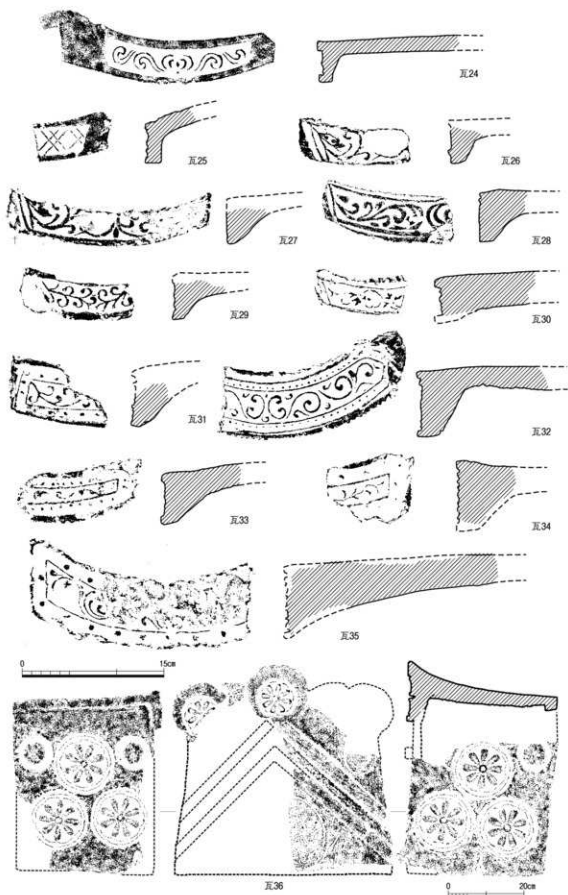


图28 瓦拓影·实测图3 (1/4)

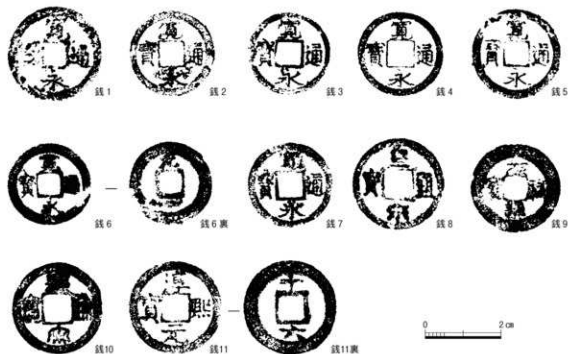


图29 錢貨拓影圖 (1/1)

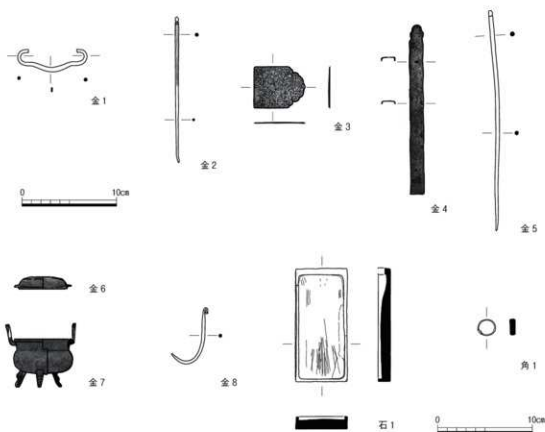


图30 金属·石·角製品実測圖 (1/4)

軒平瓦 (図版23、図28・31)

瓦24は均整唐草文で土壙81出土。瓦25は格子文で井戸383出土。瓦26は偏向唐草文で井戸86出土。瓦27は偏向唐草文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦28は偏向唐草文で土壙83出土。瓦29は偏向唐草文で土壙83出土。瓦30は偏向唐草文で井戸657出土。瓦31は偏向唐草文で北調査区第4面掘下げ出土。瓦32は均整唐草文で鶴沂高等学校出土の法成寺瓦と同じ文様。溝772出土。瓦33は唐草文で土壙710出土。瓦34は唐草文で土壙384出土。瓦35は均整唐草文で井戸383出土。

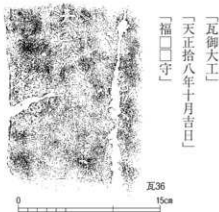


図31 紀年銘拓影図 (1/4)

棟端瓦 (図版23、図28・31)

瓦36は獅子口の棟端瓦で経の巻の瓦当は8葉の2重菊花文、正面に山形の稜筋2条と瓦当・珠文の痕跡がある。左側面は8葉の2重菊花文の瓦当が3個と珠文2個、右側面は珠文が1個欠損する。瓦当と珠文にはいずれも釘穴がある。獅子口の上面に「瓦御大工」¹¹⁰、「天正拾八年十月吉日」、「福□□守」の紀年銘の線刻がある。外面はナデ調整、内面はケズリ、ナデ調整である。コビキ痕は確認できなかった。土壙83出土。

その他の遺物

銭貨 (図29)

銭1は寛永通宝で土壙1出土。銭貨2～5は寛永通宝で土壙7出土。銭貨6・7は寛永通宝で池40出土。銭8・9は皇宗通寶、銭10は元祐通寶。銭8～10は溝250出土。銭11は淳熙元寶で溝772出土。

金属製品 (図版24、図30)

金1は銅製の取手で土壙44出土。金2は銅製の火箸で鍍金を施す。土壙44出土。金3は銅製の飾り金具で鍍金を施す。土壙181出土。金4は銅製の八双帯で鍍金を施す。土壙252出土。金5は銅製の火箸で土壙163出土。金7・8は銅製の香炉(蓋・身)・金9は銅製の釣り金具で土壙176出土。

石製品 (図版24、図30)

石1は珪質頁岩の硯で土壙176出土。

角製品 (図版24、図30)

角1は碁石で溝773出土。

V まとめ

今回の調査は公家町内の宅地や建物の変遷を明らかにすることを目的として行った。

検出遺構は殆どが土取跡や火災の廃棄土壌が大半を占めていた。遺構の中で公家町形成時から江戸時代前期と推定されるのが溝250で宅地境の溝に当り、溝の南肩部には布掘柱列500と上面には造替えの柱穴列1を検出した。いずれも塀と考えられる。絵図(図32)から推定すると溝250を境にして北側が「松木家」で南側が「四辻家」で調査区は大部分が「四辻家」の宅地が占める。江戸時代中期の遺構は調査区西寄りで見出した蔵186と南東より見出した石組713・716で「四辻家」に属す。江戸時代後期から末期の遺構は天明火災の廃棄土壌・井戸・溝などである。溝20は宅地境の溝で天明八年(1788)の火災以降(図33)に宅地境が南側へ移動したと考えられる。検出した遺構から宅地内の土地利用や建物の配置などの変遷の一端を明らかにすることができた。

出土遺物としては公家の注文品である肥前染付や京焼など町家の遺跡からは出土しない公家町の特徴的な陶磁器などが出土した。また、「天正拾八年十月吉日」銘文字瓦は御土居や寺社町建設に先立ち、天正十七年(1589)に始めた御所造営と公家屋敷の集住再編時に発注されたものと考えられ、豊臣秀吉が行った公家町の整備事業を裏付ける貴重な資料である。

一条大路末では平安時代前期の溝598を検出した。検出した位置は一条大路北側溝の推定値より約2mほど南ではあるが誤差の範囲内と考えられる。

一条大路末は藤原道長の日記「御堂閔白記」の寛弘元年(1004)の五月十一日条に「鴨河上従一條至近衛門末落水」、六月五日条に「只今参問、一條橋覆車」など一条大路末の存在が想定される記載がある。溝からは9世紀中頃の土器が出土しており、平安京の造営後の早い時期には京外へ延びる道が造られていたことが窺える。溝598の南側では鎌倉時代の溝773と路面750の2面が検出されていることから一条大路末の道路幅が縮小されたと考えられる。溝773の北側では平安時代後期から室町時代の井戸などが検出されていることや、溝598が9世紀後半頃に廃絶されていることなどから推測すると京外の北東部周辺は平安時代前期以降には、すでに宅地化が進み、道路は北側から徐々に狭められていったと考えられる。

今回の調査で平安時代から江戸時代までにおける京都の都市としての変遷を研究する上で貴重な資料を得ることができた。

注

- 1 京都市史編さん所「桃山の開花」・「年表・事典」『京都の歴史』第四・十巻、京都市 1974年。
- 2 杉山信三『院家建築の研究』吉川弘文館 1981年。
- 3 小森俊寛監修・著作『京から出土する土器の編年の研究—日本律令的土器様式の成立と展開、7～19世紀—』(有)京都編集工房 2005年。

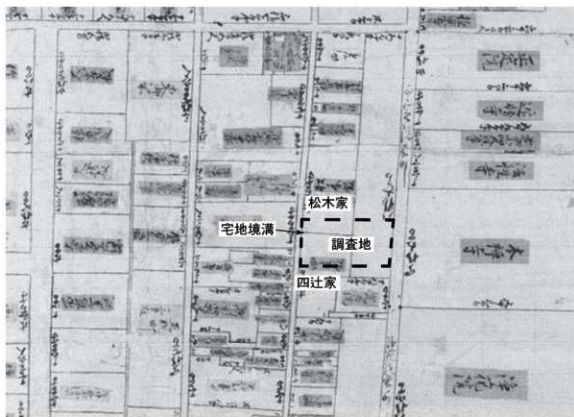


図32 『洛中絵図 寛永後万治前』（1640～50年頃）京都市大附属図書館蔵

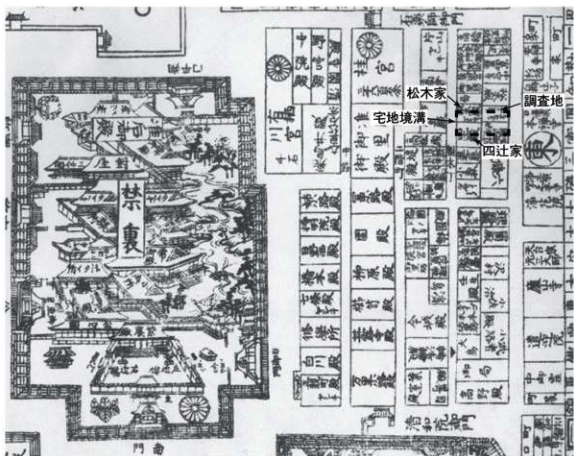


図33 『内裏絵図』文久三年（1863年頃）京都市大附属図書館蔵

註4・5 福山敏男「寺院建築の研究 下」『福山敏男著作集』三、中央公論美術出版 1983年。

註6 山崎信二『瓦が語る日本史 中世寺院から近世城郭まで』吉川弘文館 2012年。

註7 山中 弘編『御堂関白記全注釈 寛弘元年』思文閣出版 2012年。

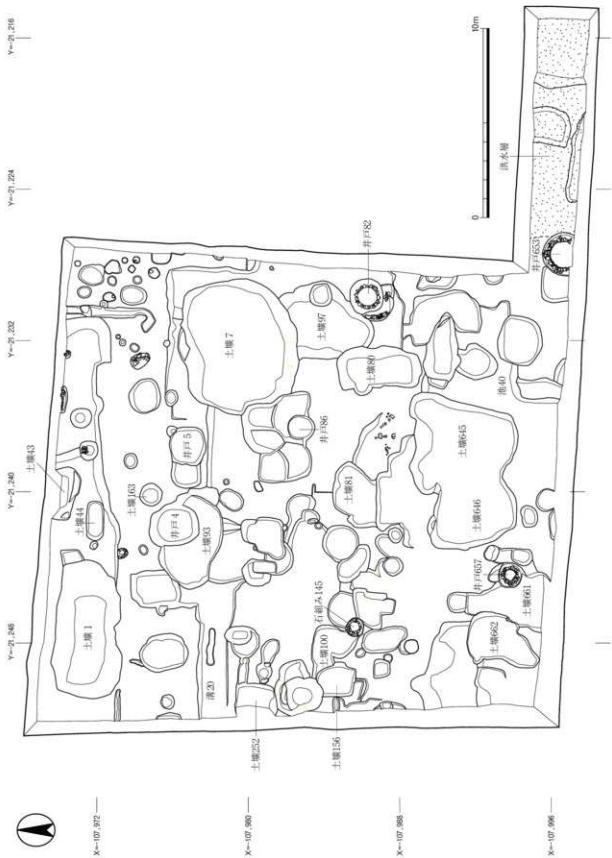
報告書抄録

ふりがな	くげまちいせき
書名	公家町遺跡
副書名	染殿町の調査
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小松武彦
編集機関	古代文化調査会
所在地	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
発行年月日	西暦2017年6月30日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くげまちいせき 公家町遺跡	きょうとよしつかいせき 京都市上京区 下町通石薬師 寺町通石薬師 下る染殿町 665-3、665-8	26100	241	35度 1分 36秒	135度 46分 2秒	2016年9月 12日～2017 年1月31日	761㎡	建物新築 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
公家町遺跡	都城跡	平安時代～ 鎌倉時代	路面、溝、井戸、 土壇、土取穴、柱 穴	土師器、須恵器、国 産陶器、輸入陶磁、 軒瓦、瓦、銭貨、角 製品	一条大路末の北側溝と 路面跡を検出した。 「天正十八年十月吉日」 紀年銘棟瓦出土
		室町時代	路面、溝、土壇、 井戸、柱穴	土師器、国産陶磁器、 輸入磁器、焼締陶器、 軒瓦、瓦	
		桃山時代～ 江戸時代中期	溝、土壇、柱穴、 柱穴列、蔵、石組、 柱穴	土師器、国産陶磁器、 輸入磁器、軒瓦、銭 貨、金属製品、石製 品、瓦	
		江戸時代 後期～末期	池、溝、柱穴、井 戸、土壇	土師器、国産陶磁器、 焼締陶器、軒瓦、銭 貨、石製品、金属製 品、瓦	

图 版



第 1 面平面実測図 (1/200)

Y=21.216

Y=21.224

Y=21.232

Y=21.240

Y=21.248

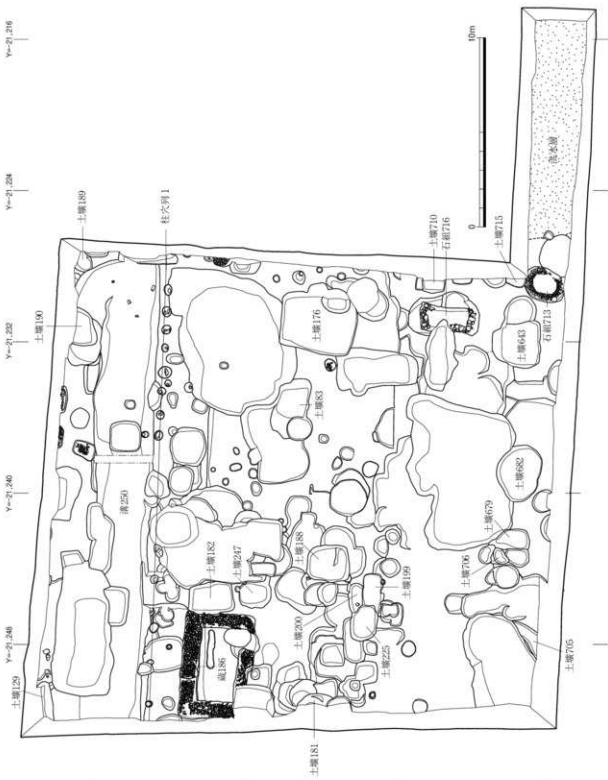


X=107.872

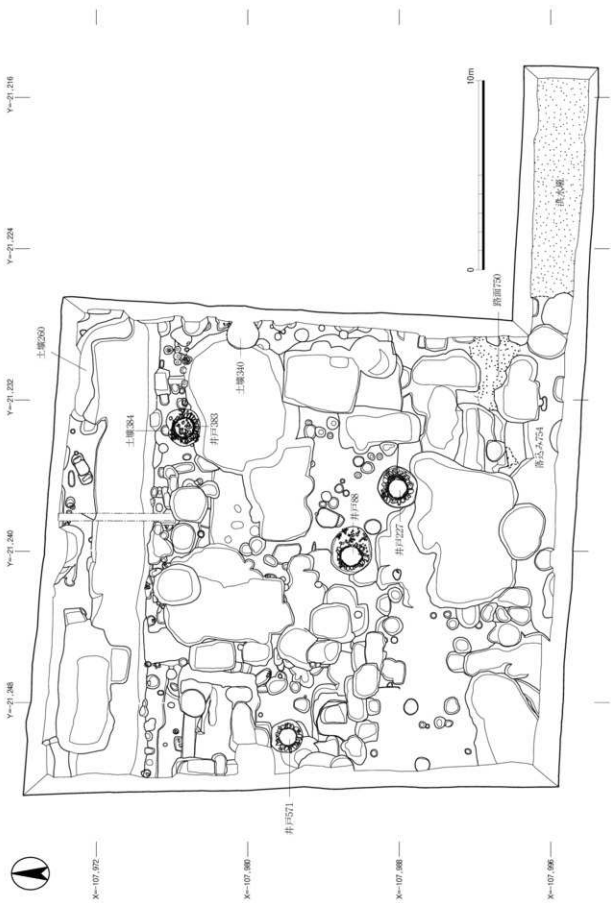
X=107.880

X=107.888

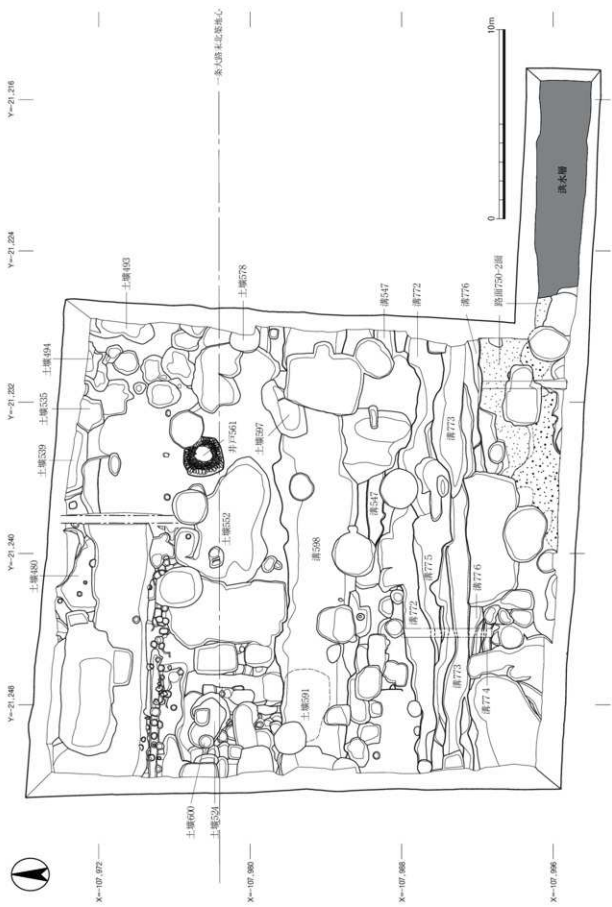
X=107.896



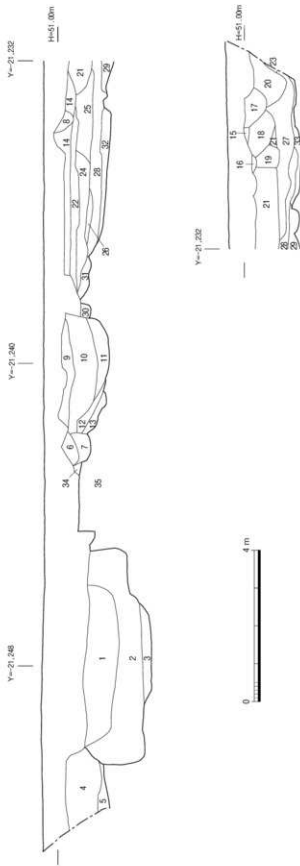
第2面平面実測図 (1/200)



第3面平面実測図 (1/200)

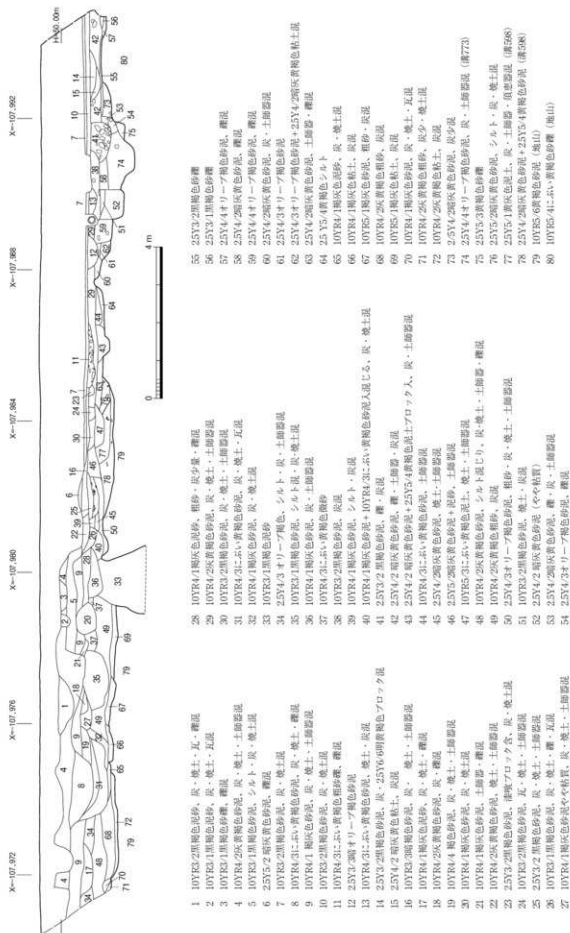


第4面平面实测图 (1/200)

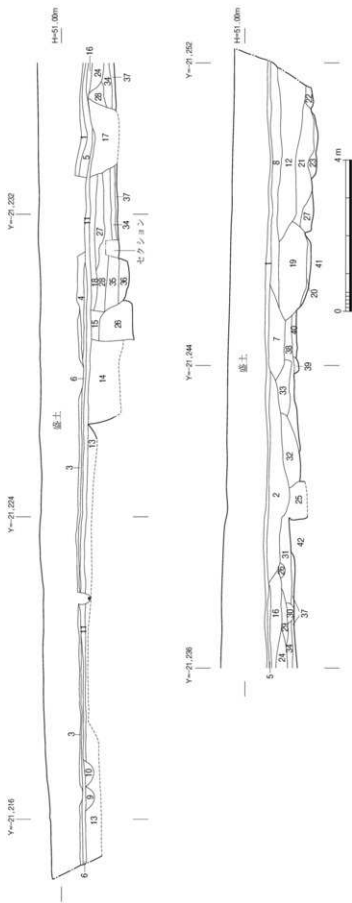


- | | | | | | |
|----|----------------------------------|----|------------------------------|----|--------------------------------|
| 1 | 10YR3.2黒褐色砂泥、礫・瓦片・土器片・炭・貝殻 (土層1) | 13 | 25Y4.4オリーブ褐色砂泥、礫・炭・焼土・土器器底 | 25 | 10YR3.4暗褐色砂泥、炭・焼土層 |
| 2 | 10YR3.4暗褐色砂泥 (焼土層)、瓦片・灰泥 (土層1) | 14 | 10YR6.3Cに多い黄褐色砂泥、礫・炭・焼土・土器器底 | 26 | 10YR4.4褐色砂泥、炭・土器器底 |
| 3 | 10YR5.4Cに多い黄褐色細砂、灰泥 (土層1) | 15 | 10YR5.6黄褐色砂泥 | 27 | 10YR4.2灰黄褐色砂泥、シルト・炭・焼土層 (土層26) |
| 4 | 10YR3.4暗褐色砂泥、炭・焼土・土器器・瓦殻 | 16 | 10YR4.6褐色砂泥 | 28 | 10YR3.4暗褐色砂泥・中砂質、灰泥 |
| 5 | 10YR3.2暗褐色砂泥 (土層12) | 17 | 10YR4.6褐色砂泥、礫 | 29 | 10YR2.2黒褐色砂泥・中砂質、土器器底 (土層33) |
| 6 | 10YR4.4褐色砂泥 | 18 | 10YR4.4褐色砂泥、瓦殻 (土層19) | 30 | 10YR4.6褐色砂泥、炭・土器器底 |
| 7 | 10YR5.2Cに多い黄褐色砂泥、炭・焼土層 | 19 | 10YR3.4暗褐色砂泥、礫 | 31 | 2.5Y7.6明褐色細砂 |
| 8 | 10YR3.4暗褐色砂泥 | 20 | 10YR5.4暗褐色砂泥、焼土層 | 32 | 10YR3.2明褐色シルト粘質 (土層39) |
| 9 | 10YR3.4暗褐色砂泥、炭・焼土層 | 21 | 10YR3.4暗褐色砂泥 (土層18) | 33 | 10YR4.2灰黄褐色粗砂、灰泥 (土層44) |
| 10 | 10YR4.4褐色砂泥、炭・焼土・土器器・瓦殻 (土層43) | 22 | 10YR4.6褐色砂泥、焼土・灰泥 | 34 | 10YR5.4Cに多い黄褐色砂泥 |
| 11 | 10YR2.2黒褐色砂泥粘質、礫・炭・焼土層 (土層43) | 23 | 25Y4.3オリーブ褐色シルト | 35 | 10YR5.4Cに多い黄褐色シルト (集山) |
| 12 | 2.5Y5.6黄褐色砂泥、礫 | 24 | 10YR4.3Cに多い黄褐色砂泥、礫 | | |

北管実洞園 (1/100)



東警察測図 (1/100)

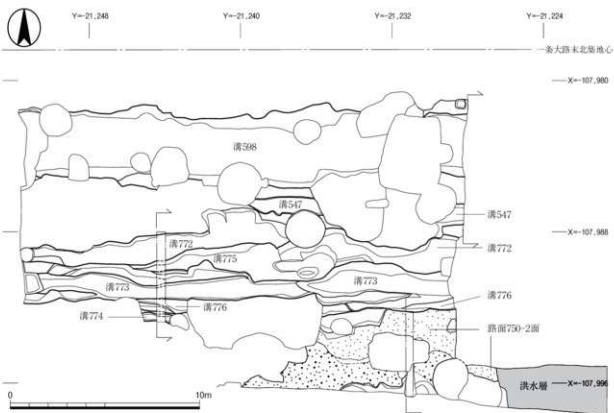


- 1 25Y3.1黄褐色砂泥
- 2 10YR3.2暗褐色砂泥、灰・焼土・瓦・土師器混
- 3 10YR4.3Lに赤、黄褐色砂泥、礫混
- 4 10YR3.2暗褐色砂泥、礫混
- 5 10YR4.2赤黄褐色砂泥、礫混
- 6 25Y3.1黄褐色砂泥、灰混
- 7 25Y3.2赤オリーブ褐色砂泥、礫混
- 8 10YR4.2赤黄褐色砂泥、礫・灰・土師器混
- 9 10YR4.1褐色砂泥、灰混
- 10 10YR4.1褐色砂泥、灰・焼土・土師器混
- 11 10YR4.2赤黄褐色砂泥、土師器・瓦・礫混
- 12 25Y3.2暗褐色砂泥、礫混
- 13 10YR4.2赤黄褐色砂泥
- 14 10YR3.1暗褐色砂泥（今令積層）、灰・焼土・漆喰混

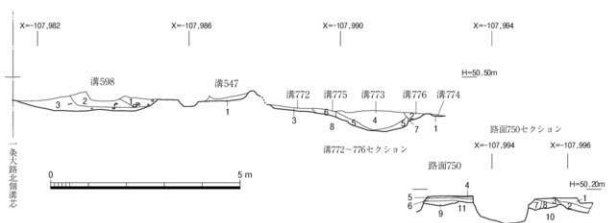
- 15 25Y4.1黄褐色砂泥（今令積層）、灰・焼土・土師器混
- 16 10YR3.1暗褐色砂泥、微砂混、灰・焼土
- 17 10YR4.2赤黄褐色砂泥、灰・焼土・礫・瓦混
- 18 25Y4.1黄褐色砂泥シルト、灰・焼土・土師器混
- 19 10YR4.3Lに赤、黄褐色砂泥、礫・灰・土師器混
- 20 25Y4.3オリーブ褐色砂泥（今令積層）
- 21 10YR4.3Lに赤、黄褐色砂泥、礫・灰・土師器混
- 22 25Y4.1暗褐色砂泥
- 23 25Y4.2暗赤黄褐色砂泥（今令積層）
- 24 10YR4.1褐色砂泥、微砂混、灰多、焼土・瓦混
- 25 10YR3.2暗褐色砂泥、灰・焼土・瓦混
- 26 10YR3.2暗褐色砂泥、微砂・灰混
- 27 10YR4.1褐色砂泥（今令積層）、灰・焼土混
- 28 25Y4.1黄褐色砂泥、粘泥・灰・焼土・土師器混

- 29 10YR4.3Lに赤、黄褐色砂泥（今令積層）、灰混
- 30 25Y4.1黄褐色砂泥（今令積層）、灰・焼土・土師器混
- 31 25Y3.2暗褐色砂泥（今令積層）、灰・焼土混
- 32 10YR4.2赤黄褐色砂泥、礫混
- 33 10YR3.2暗褐色砂泥、灰・焼土・土師器混
- 34 25Y4.1黄褐色砂泥、砂泥・灰混
- 35 25Y4.1黄褐色粘土、砂泥・灰混
- 36 10YR4.1褐色粘土、灰混
- 37 10YR4.1褐色粘土
- 38 25Y4.2暗赤黄褐色砂泥、礫混
- 39 25Y3.4黄褐色砂泥
- 40 25Y5.6明黄褐色粘泥（陶山）
- 41 25Y5.4黄褐色粘泥、礫混
- 42 25Y5.4黄褐色砂泥（粘性）

南響実測図 (1/100)



溝547・598・772～776、路面750平面実測図 (1/200)



溝598

- 1 25Y5/2暗灰黄色砂泥、シルト・炭・焼土混
- 2 25Y5/1黄灰色泥土、炭・土師器・須恵器混
- 3 25Y4/2暗灰黄色砂泥+25Y5/4黄褐色砂泥

溝547

- 1 25 Y5/4黄褐色シルト

溝772～776セクション

- 1 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥
- 2 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・礫・瓦混

3 25Y3/2黒褐色砂泥・礫混

- 4 25Y4/4オリーブ褐色砂泥・礫・土師器混
- 5 25Y3/2黒褐色砂泥・礫混
- 6 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・礫混
- 7 25Y4/6オリーブ褐色粘質土
- 8 25Y4/3オリーブ褐色砂泥(地山)

路面750セクション

- 1 10YR3/4 暗褐色砂泥・炭混
- 2 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・炭混
(落込み754)

3 25Y3/2黒褐色砂泥・炭・土師器混

- 4 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・礫混(路面)
- 5 25Y4/3オリーブ褐色砂泥・礫混(路面)
- 6 25Y4/2暗灰黄色砂泥・粗砂・礫混(路面)
- 7 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・粗砂・礫
炭・土師器混
- 8 25Y4/2暗灰黄色砂泥・礫混
- 9 25Y3/3暗オリーブ褐色砂泥・粗砂・礫混
- 10 25Y4/4オリーブ褐色粗砂(地山)
- 11 25Y4/4オリーブ褐色砂泥(地山)

溝547・598・772～776、路面750断面実測図 (1/100)



1 北調査区第1面全景（北東から）



2 北調査区第2面全景（北東から）



1 北調査区第3面全景（東から）



2 北調査区第4面全景（北東から）



1 南調査区第1面全景(西から)



2 南調査区第2面全景(西から)



1 南調査区第3面全景（西から）



2 南調査区第4面全景（西から）



1 北調査区蔵186 (西から)



2 北調査区溝250・柱穴列1 (東から)



3 北調査区布堀柱列500東半 (西から)



4 北調査区布堀柱列500西半 (西から)



1 北調査区井戸88 (南から)



2 北調査区井戸227 (北から)



3 北調査区井戸383 (北から)



4 北調査区井戸571 (南西から)



5 北調査区井戸561 (東から)



1 南調査区路面750-2・溝773 (東から)



2 南調査区溝772~776 (西から)



3 北調査区溝598 (西から)



土壙252 (1·4·8·10~12·15)·土壙176 (18·19·22·34·35·36·37) 出土遺物



土壙176出土遺物



65見込み





土壙176出土遺物



土壙176 (80~82)・土壙643 (85)・溝250 (92~95)・土壙182 (99・101・102) 出土遺物



106



116



117



127



133



134



140



141



143



144

落込み754 (106)・溝773 (116・117・127)・井戸561 (133・134)・溝598 (140・141・143・144) 出土遺物



土壙7 (瓦12·20)·土壙100 (瓦10)·土壙190 (瓦13)·溝250 (瓦15)·井戸561 (瓦11·19)·第4面掘下仔 (瓦21) 出土遺物



溝772 (瓦32)・土壙710 (瓦33)・土壙83 (瓦36) 出土遺物



土壙44 (金1·2)·土壙163 (金5)·土壙181 (金3)·土壙252 (金4)·土壙176 (金6~8·石1)·溝773 (角1) 出土遺物

公家町遺跡

—柴殿町の調査—

発行日 2017年6月30日
編 集 行 古代文化調査会
住 所 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目4番地125-1404
TEL (078)857-6368
印 刷 真 陽 社
〒600-8475 京都市下京区油小路仏光寺上ル
TEL (075)351-6034

